

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 16 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	戸室健作
研究課題	2017 年における都道府県別貧困率の実態解明と貧困の解消策の研究				
研究キーワード	貧困、ワーキングプア、非正規労働、労働組合	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	8. 働きがいも経済成長も	10. 人や国の不平等をなくそう	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	

1. 研究成果の概要

2017 年の都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率については、2020 年度に測定・公表した。それらの数値を基にして、都道府県別貧困率の高低が生じる要因について、重回帰分析で明らかにすることを考えていた。しかし、貧困解消において期待できる組織として労働組合が考えられるが、その労働組合が行ったアンケート調査の分析結果を論文にまとめる作業を 24 年度に行ったために、重回帰分析による解明は 25 年度に試みる予定である。

2. 著書・論文・学会発表等

【著書・論文（査読なし）】

・「会計年度任用職員の賃金規定要因と労働組合」『千葉商大論叢』62 巻 1 号、2024 年 7 月 31 日、41-60 頁

【学会発表等】

- ・「会計年度任用職員の賃金と労働組合」（福祉国家構想研究会雇用労働部会：全労連会館）、2024 年 9 月 8 日
- ・会場発言「自治体職員について」自治体問題研究所と自治労連・地方自治問題研究機構主催「能登半島地震合同研究会シンポジウム 能登半島地震、被災地の復旧・復興をめざして～課題とあるべき方向」（2024 年 9 月 29 日、自治労連会館）
- ・「会計年度任用職員の賃金と労働組合」（中央大学経済研究所ジェンダー研究会：オンライン）、2024 年 11 月 27 日
- ・「どのように論文を書いてきたのか」（社会政策学会研究者育成フォーラム第 15 回定例研究会：オンライン）、2025 年 3 月 19 日

[その他]

・「能登半島地震に遭った自治体職員の状況」『住民と自治』741 号、2025 年 1 月 1 日、18-19 頁

3. 主な経費

貧困問題や労働問題などをテーマとする書籍を中心に購入した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- ・ 日本労働社会学会幹事（研究活動担当）
- ・ 労務理論学会幹事（学会誌編集担当）
- ・ 労務理論学会誌編集委員
- ・ 労務理論学会第 34 回全国大会実行委員会事務局長
- ・ 社会政策関連学会協議会協議員
- ・ 自治労連・地方自治問題研究機構「人事・給与研究会」会員
- ・ 国公労連「公務員制度研究会」会員
- ・ 福祉国家構想研究会・雇用労働部会会員
- ・ 福祉国家構想研究会・生活保障基本条例制定部会会員
- ・ 福祉国家構想研究会・資本主義構造分析部会会員
- ・ 自治体問題研究所、自治労連・地方自治問題研究機構「能登半島地震合同研究会」会員

（本文は2ページ以内にまとめること）